平成 27 年

NPO 法人ふれ愛ぴっく大阪クラブルール研修会

2015.02.22
柏原市民プラザ会議室

1. 主催者挨拶

ＮＰＯ法人ふれ愛ぴっく大阪クラブ　理　事　長　藤　森　洋　幸

2　講師紹介

ＮＰＯ法人ふれ愛ぴっく大阪クラブ　審判委員長　堀　川　俊　純
ＮＰＯ法人ふれ愛ぴっく大阪クラブ　副審判委員長　梁　川　　武
ＮＰＯ法人ふれ愛ぴっく大阪クラブ　副審判委員長　松　野　宏　信

3　参加者自己紹介

4　研　　修

① 全日本グランドソフトボール連盟審判申し合わせ事項について

② 審判員の基本について

③ 審判員としてどう対処すればよいでしょうか?

④ 質　疑

⑤ まとめ

平成２７年ふれ愛ぴっく大阪クラブ研修会資料

ＮＰＯ法人ふれ愛ぴっく大阪クラブ

１．審判員の基本について

① 発声は？　メリハリをつけて、際どいプレイの判定は更に大きな声で。

② 判定は？　落ち着いて正確に、自信を持って。

③ 判定に際しての位置取りは？
近すぎないこと、プレイヤーの邪魔をせず、プレイが良く見える位置へ。

④ 球審は？　その試合の演出家である。ストライクの判定は辛くならないように。
「ファールボール」・「ノープレイ」のコールを明確に。

⑤ 一塁審は？　塁上のプレイ全体が良く見える位置取りと、右翼線の打球の判定。
停止圏でのプレイの見極め、球審の動きにより本塁でのプレイに備える。

⑥ 二塁審は？　塁上のプレイ全体が良く見える位置取りと、左翼から右翼までの外野地域の打球の判定。
停止圏でのプレイの見極め、二塁でのプレイを見る。

⑦ 三塁審は？　塁上のプレイ全体が良く見える位置取りと、左翼線の打球の判定。
停止圏でのプレイの見極め、三塁でのプレイを見る。
全盲野手が、前後にいるのでそのプレイには特に注意を払ってジャッジする。

⑧ 外野審は？　本塁打・三塁打・二塁打の判定。
塁審と連携した外野飛球・全盲野手の体内捕球の判定。

⑨ 審判員の動き？　「ファールボール」・「ノープレイ」の判定は、ノープレイライン・ファールラインをまたいで判定。
審判員相互の連携。誰が判定するか　球審と塁審、塁審と外野審。
捕球の判定については、野手の邪魔をしないようにし、野手が捕球したかどうか確認出来る位置（野手の斜め前）で判定する。
ノープレイライン際のきわどい捕球の判定。
試合停止圏内に送球が持ち込まれた場合、「停止」のコールは球審・塁審全てが行う。（時間のずれは構わない）　セーフかバックかのコールを明確に

⑩ 全盲野手の守備位置？
プレーが一段落した後の全盲野手の守備位置に注意、ファールラインを出ていれば正規の位置に誘導。

⑪ 選手との対応　試合中は、試合進行に必要こと以外、選手と無駄な言葉を交わさないこと。
会場内では、誤解を招かないよう出来るだけ選手との接触を避けること。

⑫ 競技役員との連携
審判員・記録員等の連携を密とし、試合前・試合後のミーティングを必ず行うこと。なお、審判員に対する批判等は慎むこと。
試合途中での審判員の指導等は、不信感を与えるので必要最小限とすること。

２．次のような事例のとき、審判員はどのように対処すればよいでしょうか

01．　弱視打者が、赤色の混じった野球用打撃手袋をして打撃を行った。

02．　打者（弱視、全盲）が、トレーニングバットで打撃を行った。

03．　全盲打者のとき、右遊撃手が内野地域に入り投手板の後で守備をしていたが、投球と同時に投手板より前に出て、全盲打者の打球を捕球した。

04．　走者三塁。打者（全盲）が二塁後方へ小飛球を打った、二塁手はこの打球をジャンプし好捕したが、着地したときに片足が塁間のラインを踏んでいた。

05．　一死走者三塁、打球が三塁手に当たり審判は「タッチ」のコールをした。これを聞いた三塁走者は、タッチアップをして本塁に達したが、この打球を左翼手（全盲）が捕球し、バックアップに入った中堅手にトス、中堅手は三塁ベースに入った左遊撃手に送球した。

06．　走者二塁。左中間に安打が打たれ、二塁走者は三塁を回り本塁へ向かっていた。外野手からの送球を中継した左遊撃手が、走者をアウトにするため本塁に送球した時、停止圏へ入った。

07．　走者一塁．二塁（全盲）、三遊間への打球を左遊撃手が捕球し、三塁手にベースに着くように指示し三塁手に手渡ししたが、その時左遊撃手の足が三塁ベースに触れていた。

08．　走者一塁（全盲）、一塁手が走塁ラインで守備をしようとしていたので、「全盲走者の走路に入らないよう」一塁手に一塁審判員は指示をした。
次打者の打球が、一・二塁間のゴロとなり、一塁手が守備体勢に入ったとき、全盲走者と一塁手と接触した。
一塁審判員は、事前に一塁手に注意をしていたので、「ディーレドデッドボール」のシグナルを出し、「オブストラクション」として打者走者セーフ、一塁全盲走者を二塁とした。

09．　三塁方向にゆるいファールの打球が打たれ、三塁手（全盲）が捕球体勢に入った直後、コーチャーズボックス内のコーチャーに触球し、三塁手は捕球できなかった。
審判は「ノープレイ」を宣告、守備側から「守備妨害では？」との抗議があった。
審判員が集まり協議の結果、「コーチャーの守備妨害、打者アウト」として試合を再開した。

10．　左中間への大飛球、外野手は捕球に向かった、その時外野のノープレイラインの外に出てしまったが、捕球した時片足はノープレイラインに掛っていた。
外野審は外野手の斜め後ろからホームランのコールとジェスチャーをした、外野手は足がノープレイラインに掛っていたので「アウト」ではとアピールして来た。

１１．　三塁打になりそうな打球（そのままだと間違いなく三塁打）を懸命に追った野手が、ボールを蹴飛ばし、内野地域のノープレイライン外に出た。
出合い頭だから二塁打になったが、見ようによっては明らかにサッカーのキックのようであった。ルール上でキックは送球？しても良いか。モラルの問題か。理論上不可能ではないプレーについての対処はどうしますか。

１２．　全盲打者の打球が一塁側へのファールボールになった。球審は、「ファールボール」とコールした。投手がファールボールを捕球するため、打球を追いかけていった。
その時、一塁のランナーコーチは、全盲打者走者を誘導するため「手ばたき」をしていた。

１３．　全盲打者の打球がレフト方向に、全盲野手がその打球を捕球しようとしたが、打球をハンブル、再度捕球を試み確保した。
三塁審判員は、打球を追いかけて全盲野手の捕球を横から確認して「アウト」とコール。
その時、外野審判員も打球の判定に備え移動し、背中越しに「アウト」と判定した。

１４．　走者（全盲）一塁・三塁で、次打者の打球が左中間に飛び安打となり、一塁走者（全盲）は好走よく三塁へ達した、打者走者も三塁へ向かった。
中堅手は、三塁カバーに入った左遊撃手に送球した。それを見た二塁コーチャーは慌てて「バック・バック」と大きな声を出したので、三塁に達していた一塁走者（全盲）は二塁方向へ戻り打者走者とすれ違った。
二塁塁審をカバーした三塁審判員は、追い越された打者走者を指差し「アウト」とコール。

１５．　一死満塁一・二塁走者（弱視）三塁走者（全盲）、次打者の打球は中外野手前に打たれた。各走者は進塁したが、三・本塁間を走っていた全盲走者が後位の走者に追い越されそうになったため、本塁コーチャーがコーチャーボックスを飛び出し、全盲走者を誘導した。
　次の場合どう判定するのか。
　　ァ、　打球を処理したセンターが、本塁めがけて送球した。
　　ィ、センターは二塁に送球し、一塁走者はアウト。その後セカンドが本塁へ送球した。
　　ゥ、　センターは打球をはじき球は、外野ノープレーラインに出てしまった。

１６．　走者一塁（全盲）左前へ安打が打たれ、二塁コーチャーは「手ばたきで」走者を誘導していたが、走者が二塁ベース手前で蛇行したので二塁コーチャーはコーチャーボックスより片足を出し、走者を引っ張り込んで二塁ベースを踏ませた。
守備側よりコーチャーの違反で、走者が「アウト」ではとのアピールがあった。

１７．　走者一・二塁（全盲）捕手の手ばたき合図が始まり、二塁走者は二塁コーチャーと手をつなぎ離塁した、投手から牽制球が投げられたが、悪送球なり二塁走者は三塁へ向かいベース手前で滑り込んだが、ベースに足が届いておらず、三塁コーチャーが足を引っ張りベースを踏ませた。これを見た三塁塁審は走者を指差し「アウト」のコールをした。